会津能楽會会報

第6号

発行者
会津能楽会
責任者
佐藤　ヨシカ
〒965-0856
会津若松市幕内東町2-11
電話0242(26)1003

能楽の輪を広げよう

会長　佐藤　ヨシカ

本会の会報は平成七年に創刊して以来、隔年で発行して参りました。第五号は例外として、第六号を隔年発行できましたことは大変うれしくおもいます。

したがって、本紙には二十四年度、二十五年度の活動記録を主とした編集がなされておりますので、諸般の事情で活動に参加できなかった会員はもとより対外的にも会津能楽会の活動を広く人々に認知していただける良い手立てになるものと期待しております。

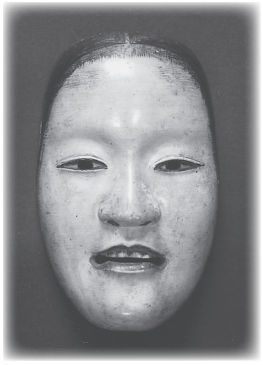
念願の能楽堂を得た会津能楽会には新しい活動の動きが見られます。従来、ほそぼそと、断続的に行われた学校に対する「能楽教室」を育成委員会の活動として、組織的、計画的に行われたことであります。

また、職分の先生による「能装束の着付け」、「囃子謡い」、「謡い本の見方と拍子」などの研修会も開催されました。

一般の人々にとっては、今や能楽は非常に関心の薄い存在となっています。近年は結婚式でさえ祝謡が出されることはほとんどなくなっています。というのも小謡のできる人が稀な存在になってしまったからと思われます。だからこそ、私たちは仲間内で能楽を楽しむだけでなく、機会があればいろいろな場所に出て、能楽をPRしなければ先細りになることは、目に見えております。ここ数年、各種イベント開催者からの「祝謡」「祝舞」の依頼に対しては会員のご協力をいただきながら、積極的にお受けしてまいりましたのも、こうした背景があるからであります。

このような地道な「種まき」が六百年余続いている能楽を次世代につなげていく事になるものと信じますし、会津能楽会にとっても重要な活動方針としなければならないことだと思います。

皆様には、各自の技術向上に努めつつも、世界遺産ともなっている能楽がこの会津の地でさらに大きな輪となるよう、更なるお力添えを心よりお願い申しあげます。



深井（ふかい）

会津能楽会所蔵、会津若松市文化財指定（S55年）6面のうちの一面。中年の女性の面です。百万、隅田川、三井寺、砧、芭蕉などの曲に使用されます。頬が痩け、目がくぼんでいます。一般には子供を失った狂った母親などに着用されています。近年では会津能楽会での使用はありません。

2 3　未来に繋ぐ育成委員会活動
4 5　演能の記録（24年度）
6 7　演能の記録（25年度）
8　装束着付部の活動他
9　『能楽堂建設の記録』出版
10　新シリーズ　グループ紹介(1)
11　能のひびき（随想他）
12　役員名簿・その他情報
編集後記

未来に繋ぐ育成委員会活動

一　能教室等の実施状況

(1)　二十四年度の実施校

（末尾数字は参加能楽会員数）

会津若松市立　県立猪苗代養護学校3
荒館小学校10　郡山市立
城南小学校10　大槻小学校10
門田小学校11　安積第三小学校12
大戸小学校11
小金井小学校（六年生）11
小金井小学校（五年生）11

(2)　二十五年度実施校等　（○印能楽堂で実施）

会津若松市立日新小学校12　荒館小学校10
行仁小学校10　城南小学校10
一箕小学校10　○鶴城小学校9
○神指小学校10　○永和小学校10
郡山市立安積第三小学校10
小学校音楽の先生方（能楽堂）
中学校音楽の先生方（猪苗代中）
「古典を愉しむ・能楽編」会津若松市
生涯学習センター及び各公民館主催

(3)　毎年参加している行事

「伝統文化であそぼう」「会津子どもまつり」

(4)　二十二年度以前の実施状況

会津若松市立城北小学校　郡山市立安積第三小学校
会津若松市立東山小学校　郡山市立赤木小学校
猪苗代町立緑小学校　会津若松市立第三中学校
北塩原村内全小学校　伊南村立伊南中学校
郡山市立緑が丘小学校　新鶴村立新鶴中学校
郡山市立冨田西小学校　県立喜多方高等学校
郡山市立安積第二小学校　私立帝京安積高等学校
中教研西会津音楽部会の先生方
会津若松市女性教師ＯＧ会

二　小学校での能教室の内容

講座の内容は二十三年度以前に行った実績をもとに児童が興味を持って学べるように組み立てた。

(1)　能について

①能「土蜘」のキリの映像見せる　②舞台について説明　③登場人物について（シテ、ワキ、ツレ、地謡、囃子と舞台での位置関係）④能の歴史

(2)　模範演技実践（演技の作法に触れる）

①謡　庭砂　②仕舞　鶴亀　③連調　山姥　④連管　舞働き　⑤舞囃子　羽衣キリ

(3)　体験学習

①楽器（笛・大鼓・小鼓・太鼓）及び面
②仕舞（すり足、シカケ、ヒラキなど）
③謡　鶴亀（庭の砂まで）

三　小・中学校の先生対象の能講座

二十五年度は小学校、中学校のそれぞれの教育研究会音楽部会の先生方から講座の要請があり実施した。

(1)　小教研音楽部会の先生方に対する講座（能楽堂で実施）

①羽衣のビデオ見学、能の歴史、能の登場人物、演能時の道具の説明の後、能楽堂見学
②模範演技・実技研修
③教科（国語、社会）などとのかかわり

(2)　中教研音楽部会の先生方に対する講座（学校で実施）

①能「羽衣」のキリの部分の映像を提示したのち教科書にあげられている項目を説明
②模範演技の見学・実技研修　まとめに受講者全員で羽衣キリの囃子謡
③配布した資料　・羽衣あらすじ　・羽衣謡本の抜粋（強吟、詞の部分、弱吟として羽衣キリ）・羽衣キリの八割手付・舞い働きの唱歌　・能装束の写真・能の作り物の図・学習指導要領とのかかわり　・能の歴史（会津の能も含めた）

四　教科書に見る「能」

小学校では

国語の教科書に狂言「柿山伏」等が載せられている。また、社会科では室町時代に生まれ現在も続いている文化として能・狂言・茶の湯などがあげられている。

中学校では

音楽の教科書に「能の音楽」の単元がある。

○教科書の内容

①能・狂言の歴史　②能の舞台（平面図と写真）③能の音楽（囃子について―四つの楽器と囃子方の写真）④能の登場人物（シテ、ワキ、地謡、面を付けたシテの写真）

具体例として能「羽衣」のキリをあげ、謡・大鼓・小鼓・太鼓を音楽の五線譜のように表し、謡の音の高低、リズムを解説していて専門的な用語も記載されている。

五　会津若松市行事に参加

(1)「伝統文化であそぼう」
会津若松市教育委員会主催
管轄は文化課文化振興
日本舞踊、陶芸など伝統文化を子どもに体験させる行事

(2)「会津若松市子どもまつり」
会津若松市教育委員会主催
管轄はあいづっこ育成推進室
子どもみこし、人形劇、弓道など子供を楽しく過ごさせる行事

(1)　(2)の行事は文化センター中心に行われる（能は能楽堂で実施　付き添いの保護者も子供と一緒に体験している）

(3)「古典芸能を愉しむ・能楽編」
会津若松市生涯学習総合センター及び会津若松市各公民館主催
研修内容（能楽堂で実施）
①講義（能の歴史・能とは何か）
②模範演技　③体験（囃子、仕舞、謡）
④体験結果の発表（謡　鶴亀）
⑤会津能楽会による「薪能」の見学

（文責　平山　昇）

演能の記録
―平成二十四年～二十五年

平成二十四年

春の演能

五月二十七日(日)
会津能楽堂

「田村」

前シテ　山垣美枝子
後シテ　山田　和彦
ワ　キ　渋川　兼三
ワキヅレ　斉藤　堅

囃子
大　鼓　坂内　庄一
小　鼓　折笠　成美
笛　浜崎　幸子

地謡
佐藤　仁　星　英男
角田喜久雄　上野　正義
相田　幸三　佐藤　信英
鈴木　圭介　平林　光雄
木村　武晴　鈴木　直寿

後見
松川善之助　伊東　正

能「田村」前シテに出演して

山　垣　美枝子

平成二十四年春季能楽会では、縁がありまして能「田村」の前シテのお役をいただきました。不安と焦躁のうちに演能は終わり、感謝と反省の気持ちでいっぱいになりました。

囃子では、合わせているつもりが、実は、合わせて下さっていること、促して下さったりすること等々、身をもって体験させて頂きました。

装束方では、小さい身体に合わせて様々な工夫を凝らし、動きやすい童子の姿に着付けて下さいました。

それぞれの持場で多くの方々が、心配し努力し手を差し延べて下さる。その大きな力が演能を守り立てていることを思い知りました。感謝です。

囃子
大　鼓　船木　真一
小　鼓　折笠　成美
笛　山田　和彦

地謡
増井　典子　瓜生　光子
山垣美枝子　佐藤ヨシカ
古田　豊子　栗城　幸子
浜崎　幸子

後見
野崎　邦子　木村　武晴

第二十六回 会津鶴ヶ城「薪能」

九月二十三日(日)
会津能楽堂

「半蔀」

前シテ　広谷　元子
後シテ　渡部　静子
ワ　キ　上野　正義

秋の演能

十月二十日(土)
会津能楽堂

「葛城」

前シテ　堀　篤子
後シテ　野崎　邦子

ワ　キ　一条　正夫
ワキヅレ　長澤　豊

囃子
大　鼓　坂内　庄一
小　鼓　折笠　成美
太　鼓　佐藤　馨
笛　山田　和彦

地謡
渋川　兼三　平林　光雄
斉藤　堅　中村　寿男
相良　實　佐藤　信英
松尾　幸生　有我　嘉雄

後見
玉川おくに　伊東　正

平成二十五年

春の演能

六月二日(日)
会津能楽堂

「箙」

前シテ　上野　正義
後シテ　平山　昇
ワキ　鈴木　圭介
ワキヅレ　皆川　米作
囃子
大鼓　坂内　庄一
小鼓　折笠　成美
笛　山田　和彦
地謡
荒川　勝　有我　嘉雄
鈴木　直寿　中村　寿男
相田　幸三　平林　光雄
渋川　兼三　星　英男
後見
佐藤　信英　斉藤　堅

第二十七回 会津鶴ヶ城「薪能」

九月二十三日(祝)
会津能楽堂

「胡蝶」

前シテ　増井　典子
後シテ　玉川おくに
ワキ　佐藤　信英
囃子
大鼓　船木　真一
小鼓　折笠　成美
太鼓　一条　正夫
笛　山田　和彦
地謡
渡部　静子　野崎　邦子
斎藤　令子　佐藤ヨシカ
遠藤ヒロ子　栗城　幸子
堀　篤子　五十嵐久子
後見
平山　昇　古田　豊子

能「箙」前シテで出演して

上野　正義

能のシテ役は初めてである。ワキ役などは何度か経験しているが、責任の重さと、シテの立ち振る舞いはできるか、さらに覚える範囲が多い事も心配だった。

喜宝会主宰の武田先生に謡をお習いしている。立ち方の稽古は初めてで、能の稽古をする機会は二回しかない。先生が配慮をして自主稽古できるようにと、手付を郵送してくださった。最初の稽古までに出来る限り覚えることを目標としたが、見事に言葉も動作も忘れてよくわからないうちに終わってしまった。二回目の稽古は本番一ヶ月前で所作の指導を受けながら何とか終えることが出来た。

先生の稽古のほか、一緒に出演する役の方々と幾度も申合せし、同じ舞台を共有できたと感じている。また能楽会会長にはいつも申合せにお付き合いをいただき、細かいところを教わった事が自信となった。しかし稽古にはこれで十分ということはないようである。本番は、揚幕の前で頭が真っ白になり、運び始めればなんとかなるという思いで一歩を踏み出している。

演能終了までには多くの方々にご協力をいただき、無事終えたことに感謝している。

秋の演能

十月二十六日(土)
会津能楽堂

半能「小督」

後シテ　船木　真一
小督　古田　豊子
侍女　山垣美枝子
囃子
大鼓　平山　昇
小鼓　折笠　成美
笛　山田　和彦
地謡
木村　武晴　星　英男
佐藤　仁　中村　寿男
渋川　兼三　上野　正義
松尾　幸生　皆川　米作
後見
佐藤ヨシカ　渡部　静子
一条　正夫　坂内　庄一

装束着付部の活動について

小野木　和子

装束着付部には、現在二十五名の部員がおります。

指導者丸山美伊子、岸栄一郎両先生にご協力をいただきながら、平成二十年度から今年度まで十八曲目の演能者の装束を部員の皆様と着付をしてまいりました。

装束着付部の活動は、演目の装束名称を憶えていくことから始まります。謡本の「装束附の頁」をみて舞台に出る各お役の装束を調べることが、最初の仕事となります。それが着付部の基本でもあります。冠り物、頭髪、面、装束、それに附属物と組合せ、使用する能装束一式を取揃え着付をしていく訳けです。

演目によっては、装束もそれぞれ異なってきますので、興味を持ちながら着くずれしない着せ方を目標に、皆様と研究し積極的に取り組んできております。

また、使った装束の後始末も部員の仕事となっておりますし、装束の「ほころび」などの補修をすることも大変多く、これも部員の皆様と相談しながら進めてまいります。

二十五年度も部員の皆様の協力で無事終了しましたこと、ここに報告致します。

能装束のちから

鈴木　圭介

はじめての能装束を付けたのは鶴ヶ城での「小袖曽我」トモだった。セリフは「誰にて候」「畏まって候」と二言、三言。所作も簡単だった。能装束は長袴で、赤穂浪士の松の廊下を思い出し、特設テントを出て歩き方の稽古をして舞台に立った。

その後、七回の舞台に立った。

能装束は能では唯一、華美・豪華であり、役柄を視覚的に説明するように工夫・発達したものであろう。例えば、「葛城」前シテの白装束などは一瞬の内に雪の景色を思い起こさせる。ところがそれ以外は観客には見えないものを心で見てもらう象徴的表現に向ったのである。

装束が観客のためのものだけではない事に私が気づいたのは「松虫」の前シテ役の時であった。袴の一種の白大口を付けるが、松虫のシテには仕舞と同じように舞台を地謡に合せて動きまわる所作がある。仕舞をしない私には歩き方（運び）に不安があった。

当日、装束を付けてもらうと、腰の辺りに腹綿袋を付けられ、後腰には背板（バネ）を差し込まれるので自然と背筋も伸びる。なるほど、これなら姿勢も良く、摺り足もうまくいくような気がした。歩いても見ると、上体がしっかりして、摺り足の心地も良い。鏡の間でしばし稽古をして出番を待った。

合図の笛で橋掛かりへと運んだ。着るものは人の気持ちを変えるというが、その時、私から不安は消えていた。装束方の着付けで安堵感が湧いていたのだ。

装束着付講習会

平成二十四年八月十八日
午後五時より
講師　水上　優　先生
（下記写真はその様子）

『能楽堂建設の記録
―募金だけによる夢の実現―』出版される

会報第五号の能楽堂建設特集では拠出金（寄附金）の詳しい分析、すなわち個人団体別統計、年度別募金額、地区別募金額についての記事はなかったので、このたび、発行された表題の本からそれらのデーターを本紙に転載することにした。

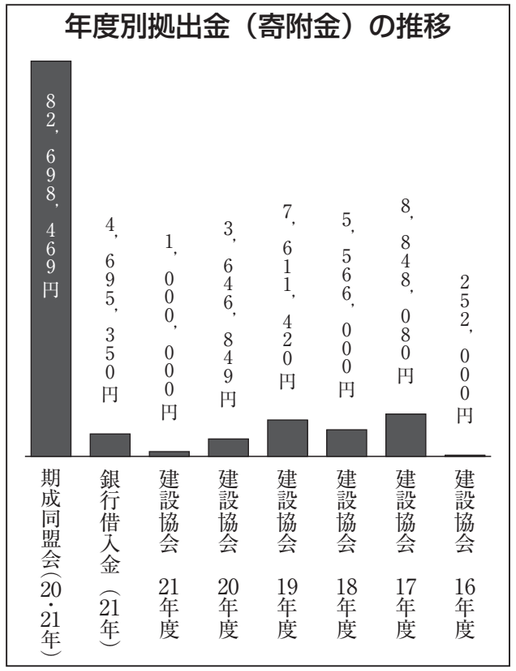
この本は会津能楽堂建設協会の役員であった鈴木圭介氏が協会の活動資料をパソコンに取り込み、編集し、A5版225ページの本として出版したものである。発行の動機は建設記録を後世に残すためであるという。

会津若松市には歴史や文化、伝統工芸を求めて観光客が訪れる。観光客が募金だけで能楽堂を建てた立て札を見て関心をもち、市に問い合わせをしても、市役所関係者には詳しい事情を知っている人もなく、建設関係の資料はあるはずもない。何故なら能楽堂は建設協会が寄付を集め建設し、完成後市に寄附されたからである。ましてや、十数年後となると、建設協会関係者でさえも質問に答えられなくなっているはずである。この本は間違いなく後世に記録を残す役割を果たしてくれるはずである。

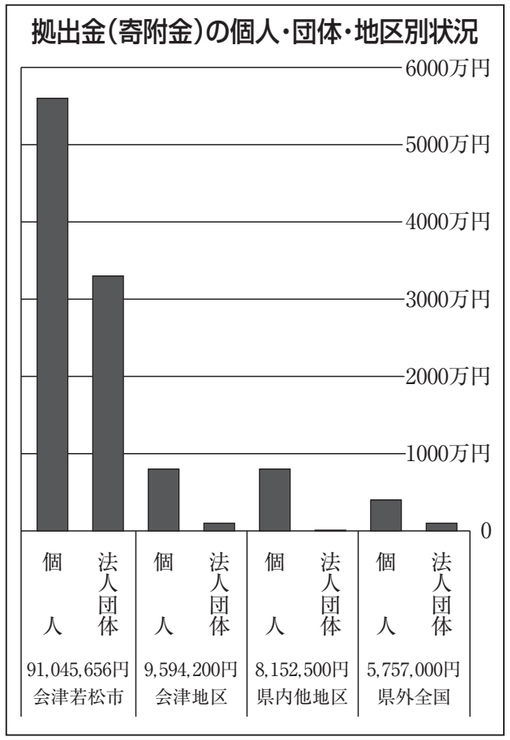
この本の寄附者名簿には個人の金額が入っている。この金額入り寄附者名簿は個人情報とも考えられるため、発行部数を少なくし、建設協会役員と関係者のみに有料限定頒布されている。会津能楽会と三つの公立図書館（国会、県立、市立）へは寄贈されているが個人情報保護の観点から平成三十一年までは閲覧禁止の条件を付けてあるので、当分は閲覧できないということです。

参考までに目次を示すと

はじめに
発刊によせて
第1章　会津の能楽
第2章　動き出した建設運動
第3章　会津能楽堂建設協会
第4章　建設協会の活動と財務
第5章　能楽堂建設工事の経過
第6章　募金経過と募金者名簿



建設協会へ　26,924,349円（27.6%）
期成同盟会へ　82,698,469円（72.4%）



新シリーズ グループ紹介（第一回）

「会津△〇（タッポー）会」（幸流小鼓）沿革

折笠成美

昭和三十二年、故・幸祥光師の薫陶を受けられた故・住駒明弘師が故・佐野巌師の紹介により来若、「会津△〇会」が発足。故・斉藤伍吉氏（会津能楽会長）故・中村和子さん、故・穴沢寿美さん、故・藤村敬子さん、故・岸　淑江さん、稽古場を提供下さった故・蒲生悠成氏（本覚寺）その他数名居られ、昭和三十九年に小生も入会。

昭和四十五年三月三日間にわたり金沢能楽堂に於いて故・住駒陽介師の「古希記念囃子会」が催され、故・宝生九郎師、故・英雄師、故・大坪十喜雄師、故・佐野　萌師、故・観世寿夫師、故・静夫師、故・幸祥光師等々、錚々たる演者により盛大に行われ、九郎師の謡、陽介師、明弘師、匡彦師三代により連調「船弁慶クセ」（幸祥光師後見）が演じられました。舞囃子「放下僧」（鞨鼓）折笠成美、（小鼓）藤村敬子さん。

昭和四十七年頃、東山温泉「向瀧」にて「会津△〇会十五周年記念大会」が催され、金沢・静岡の流友、故・大坪十喜雄師、故・金井　章師、故・榎本貴俊師他多くの演者により盛大に催されました。

昭和六十年十月七・八日国立能楽堂に於いて「幸昭会・△〇会」が催され故・観世左近師・清和師、故・宝生英雄師、故・英照師他多くの演者により盛大に催され、故・松枝和夫氏、山田和彦氏、玉川おくにさん、小生・他が参加しました。

現在会員三名です。皆様ふるってご入会をお待ちいたしております。

会津鳴瀧会

浅見晃司

会津鳴瀧会（めいろうかい）は、幸信吾師のもと幸流小鼓の稽古を通して、能楽の理解を深め正しい流儀の伝承と会員の親睦を深める事を旨とした会です。会津の稽古場も今年ではや六年目を迎え、会員も八名が日々、稽古にいそしんでおります。又、鳴瀧会は東京を中心に各地にあり、年一度、十月に矢来能楽堂にて一年の成果を発表し、その番組には素人ながら、一調、乱、獅々等難曲、大曲がならび、しっかり舞台を務めておりますのは、何より師の御指導の賜物と存じます。その懇親会に於いては、各地の会員皆様と旧知を暖めるのも一興です。さて、師の指導内容ですが、従来の古典芸能の稽古と異なり、素人、玄人の枠を設けず、師の一貫した方針で進みます。何百年も伝承された能楽において、素人だから曖昧でよい、という事はありえず、演奏技術には個人差が有りますが、その理念と精神は平等に伝えられなくば稽古する意味がありません。よく耳にする事で、長年稽古を積んでこられた方でも、お道具が組めない、平ノリって何？　八拍と思ったら六拍半しかないのは何故？等、これらは昔の稽古事の悪しき慣習による弊害に他なりません。

師はこれらの点を考慮し、能楽の基盤の様式を非常に合理的に解析し、初心者から経験者まで、徹底指導にあたります。中々難解な能楽の根本の様式・規則性、例外を学ぶ事は、正しい理解の最短の道と存じます。会では何時でも見学、入門を承ります。ご興味ある方は、経験の有無を問はず、お気軽にお立寄り下さい。

▼会津能楽囃子会の動き

▽第二十三回会津能楽囃子会
平成二十四年三月十一日（日）
会場　萬花楼　十一時始
内容
舞囃子　志賀他十一曲
連調小鼓　羽衣　連管　舞働
独吟　桜川他一曲

▽第二十四回会津能楽囃子会
平成二十五年三月十日（日）
会場　伊東舞台　十一時始
内容
舞囃子　弓八幡他九曲
連調太鼓　連調大鼓　連調小鼓
連管　神舞　独吟　山姥

現在は五十四名の会員数である。年一回舞囃子を中心とした番組で会を開催している。

会の開催以外に昨年度初めて山田会長による囃子謡の研修と能楽師水上優先生を招いて、囃子会で行う曲目の内、四曲を選んで囃子謡の研修会を実施した。

今後も引き続き研修会を計画するとともに、囃子方の先生を招いての研修会も企画したい。

囃子会では会員の募集をしています。囃子を稽古している人、囃子は習っていないが謡を勉強したい人、入会大歓迎です。

事務局　上野　正義

平成二四年度
会津若松市教育委員会表彰

文化芸術功労賞受賞

玉川おくに先生

昭和二九年県職員となり「生活改善普及員」として、雪国農村の生活改善のために地域文化の絆を大切にしなければならないとの考えから謡曲を習い始めた。昭和四六年、穴澤寿美先生に能楽の基本を学び、昭和五二年に会津能楽会に入会。翌五三年宝生流シテ方寺井良雄師に師事、本格的に能楽を学ぶ。以後、笛、小鼓を習い、昭和五九年、「珠宝会」を主宰、会主として後進の指導に当たる。平成七年会津能楽会理事に推挙され事務局「庶務」として広報活動に従事。薪能一〇周年記念事業の実行委員として記念誌『会津の演能』編纂。傍ら大鼓、太鼓を職分の師に習い、芸域を拡充。平成十二年には会津能楽堂建設協会の理事として活躍。平成一八年、宝生流宗家より師範免状を認可され、能楽協会会員となる。現在会津聡雲会会長。

宝生流教授嘱託免状取得（昭和59年9月）
市内緑町6－35
社中　珠宝会　主宰
会津能楽会加入年（昭和52年2月）
会津能楽会役員歴等
理事（平成7～）・庶務
能楽堂建設協会理事
宝生流教授嘱託会福島県支部長

能のひびき

「薪能の解説」を担当して

岩澤和子

会津の能…能舞台は、会津保科二代目、正経公（寛文九年～天和元年）の時代、城内三之丸（廊下橋東）に設置されたのが始まりとか――能楽を愛好する人は武家に止まらず町人にも受け継がれていったようです。

現在の能楽堂建設以前には、本丸の特設舞台で、「会津まつり」の夜に行われていました。

薪能は、「火入れの儀」をもって会場の緊張を促し、かがり火の弾ける音、鳴り物の調べを聞くうちに幕があがる……緊張そのものの中で演目の概要を説明……「落ちついて落ちついて」と自分に言い聞かせる気持で解説をはじめる…

作者の事…その演目の舞台―その頃の会津は？と、調べられる範囲でお知らせする事にしております。

そして、一人でも多くの方が能に、謡に関心をお持ちになり、会員が増えて行く事を念じながら……解説を続けて行きたいと思っております。

能「土蜘」出演の感想

佐藤信英

平成二十一年十一月一日、会津能楽堂での演能『土蜘』の頼光役を思い出して見たいと思います。以前先輩の方々が立派に上演されておる姿を拝見して、俺も出演してみたいなという希望を持ち続けておりましたところ、事務局の折笠先生より『土蜘』の頼光役の話があり、深い考えも無く引受けました。が、月日が経つにつれ、これは己れの能力も顧みず大変な事を引き受けてしまった、馬鹿なことをしたという後悔も許されず、いよいよ稽古に入って行く。稽古に入る前に詞は覚えて下さいといわれ、毎日毎日、詞・謡所の暗記が始まりました。自分は農家なので、農作業の合間など稽古の場所・時間に限りがあります。寝所で暗唱を繰返し、風呂で大声で謡い、やっと詞の暗唱ができたと見るや、今度は所作の稽古。『土蜘』の頼光には激しい太刀廻りがあり、何度やっても出来ません。情無いやら、悲しいやら、併しこれが己に課せられた課題なり、誰も助けてはくれんと悶々とした中で稽古を続け、ようやく本番前二度の打合せを迎える。ものすごいプレッシャーが己を襲い、頭は真白く、口はもごもごと貴重な体験をしながら、いよいよ本番、装束姿で出番を待つ。役に徹せと己を諭し、俎上の鯉よろしくいざ出演。しずしずと橋掛かりを渡る…まだまだ書き足りませんが、紙面が尽きましたので、筆を置きます。

舞囃子「安宅」の笛を吹いて

佐藤仁

午後八時、農村地帯の我が家の周囲は既に夜が深い。稽古場としている書庫に閉じこもると周囲の書架に並ぶ書籍が防音の役割をはたしているから音が外に漏れることはないので、気兼ねをする必要はない。山田先生の拍子をプレイヤーで流しながら男舞の稽古が始まる。一曲吹いては、本を読みながら息を整え、また吹くということを繰り返して稽古が終わると十時。読書と笛の稽古が両方できる。十月二十六日、いよいよそのとき。シテ山田先生、大鼓船木さん、小鼓平山先生。オヒャ～と息を吹き込むと笛の鳴りがいい。吹きながら自分なりの境地に入って行く。今日は上手くいきそうだなという手応えが脳裏をかすめる。曲は進んで三段目、正先にいるシテの姿が視界の端に見える。大小前に来なくてもいいのかなと思いながら三段の締めに入る。途端、シテ山田先生が口踊で続きの唱歌を歌う。地を一つ飛ばしていることに気づく。あわてて吹きなおしたが、とき既に遅し。大鼓、小鼓を巻き込んで大混乱のうちに舞は終った。今思い返しても冷や汗三斗。山田先生には大変ご迷惑をおかけしたこととお詫び致します。

役員名簿

平成二十四年一月現在

会長	佐藤ヨシカ
副会長	湯田眞佐弘
〃	折笠成美（事務局長）
〃	平山昇
理事	玉川おくに（庶務）
〃	上野正義（庶務）
〃	伊東正（会計）
〃	鈴木圭介
〃	一条正夫
〃	小野木和子
〃	栗城幸子
〃	角田久美子
監事	岩澤和子
〃	渡部妙子

平成二十五年一月現在

会長	佐藤ヨシカ
副会長	湯田眞佐弘
〃	折笠成美（事務局長）
〃	平山昇
理事	玉川おくに（庶務）
〃	上野正義（庶務）
〃	栗城幸子（会計）
〃	坂内庄一（会計）
〃	伊東正
〃	鈴木圭介
〃	一条正夫
〃	小野木和子
〃	角田久美子
監事	河合正弘
〃	渡部妙子

◎委員会構成（代表者）

演能企画委員会　折笠成美
財産管理委員会　一条正夫
能装束着付部　小野木和子
広報委員会　湯田眞佐弘
会報編集委員会　鈴木圭介
ホームページ作成委員会　鈴木圭介
育成委員会　平山昇

「その他」の情報

▼能楽会員の状況

平成二十四年一月　九十九名
平成二十五年十二月　九十二名

入会者　五名
佐藤昭悦　小野久子
星田光子　岩渕健一
新井田大

退会者　九名
岸栄一郎　小野木保
角田喜久雄　浅見晃司
山田ミヤ子　大野千佳子
丑米義弘　田中富美子
佐藤セツ子

物故者　三名
中村寿一　相良實
伊東正

▼寄贈品について

▽故人　能楽師寺井良雄様
会津龍風会の稽古場にあった品物の一部が会津能楽会に寄贈された。

・桐ダンス　一棹
・姿見　一台
・見台　十五個
・折畳テーブル　二個

▽故人　志賀幸子様
シテ方、観世流師範でしたが、囃子すべてを習得されていました。囃子のお道具一式を寄贈されました。

▽埼玉県　磯部典子様
観世流謡曲本九十九巻（桐箱入）

▽座卓（能楽堂竣工記念）
山田和彦　三個
鈴木圭介　二個

▼装束庫の棚設置について

装束庫の衣束類はタンスに収納されているが、棚が無かったため、常時使用しない物がタンスの上にあり、空間使用が上手くされていない状態だった。

平成二十五年五月に伊東正理事の手配によって棚が完成し、品物類の入れ替えを行った結果、整然と整理された装束庫となった。

編集後記

○今冬の冬は、ひと降り降っては止みして、毎年丈余の雪に閉ざされる多雪地帯にとってはありがたい降り様です。

○この時季一面真っ白い雪原にいろいろな獣の足跡が描かれます。その獣の足跡をたどるのは楽しみです。ミシンの縫い目のように点々と一筋に連なる足跡が、時折もつれたりします。獣の歩みを乱す異変が生じたのでしょう。

○会津能楽会会報第6号をお届けします。2年分の会津能楽会の動向をまとめて、盛りだくさんの内容になりました。

○2年間の足跡を後世に伝える記録です。順調な足取りであったが、乱れた足取りであったか、その判断は後世の人々に任せたいと思います。

○新企画の「グループ紹介」と「能のひびき」その他で多くの会員に執筆の労を取っていただきました。皆さんにお礼を申し上げ、会津能楽会の発展が順調な足取りとなることを祈念して編集後記とします。

鈴木圭介
石田桂子
上野正義
増井典子
佐藤仁